

『地域で人と人をつなぐ人から学ぶ わたしたちの活動にも活かせるつながりづくり』

2023年7月28日(金)、まちづくり講座19講をオンラインで開催し、9生協5団体・31名が参加しました。今回の講座は、地域でゆるやかなつながりをつくり、そのつながりから様々な形で広がりを見せている荒川区での事例についてお二人の講師からお話を伺いました。楽しい活動の様子は紙面の二次元コードを読み取ってご覧ください。

講師：鈴木

訪子さん

(おもちゃの図書館全国連絡会理事/あらかわひと・くらしの伝承の会協同代表)



「子どもが地域のさまざまな人と出会い、子ども時代を安心して育つには、家族まるごとの支援が必要」と考え、多世代共生のための居場所として始めた「子ども村ホッとステーション」、違う立場、違う団体の方がつながることで隙間のない支援ができるようになった「あらかわ子ども応援ネットワーク」、「おもちゃ図書館」「子ども食堂」「フードパントリー」やコロナ禍で取り組んだ「よろず相談」など、多岐にわたる活動についてお話いただきました。

地域のつながりは、組織と組織がつながるのではなく、組織の中のひととひとがつながること。参加している人が好きな形で楽しんでくれることを一緒に楽しむこと、ゆるやかなつながりのネットワークが新たな活動を作り出す力になるというお話は、活動を作り出す力になるなど、たくさんのヒントが詰まったお話でした。



↓おもちゃの図書館全国連絡会



子ども村ホッとステーション↑

◆鈴木さんからのメッセージ◆

- ボランティア活動・地域づくり活動というキーワードは「つなげる力」をつくる
- リラックスして雑談している時こそ、アイデアが生まれる「雑談力」は、気軽にやってみようというエネルギーになる
- できない理由を考えるより、どうしたらできるかの知恵をだしあうことを大事にしたい
- I am OK You are OK 違ってあたりまえ
- 「生まれてきてよかったと思える人生をおくりたい」を実現するためには地域でつなげる力が不可欠

(下町荒川おひさま根っこワークプロジェクト共同代表/非営利任意団体iroToriDori)

講師：奥村 梢さん

こずえ

iroToriDori (いろとりどりの)の理念

楽しみながら 相手を知り 尊重し
共に楽しく暮らす姿を
子どもたちにつないでいく
誰もが自分を肯定していきる
ために共生社会を創る



iro ToriDori facebook ↑



子育て交流サロン「ilonaおやこの縁側」の立ち上げ時に運営に誘われたことがきっかけで、「多言語パーク」「凸凹の子と一緒に育つ会『ひだまり』」「ilonaおやこの縁側」で構成されているサロン運営団体「iroToriDori」で活動を始めた奥村さん。活動を通して、子育て世代や、日本語が話せない外国の方、困りごとを抱えた人など、様々な団体や個人の方々と出会う中で、荒川には、当事者に寄り添う地域団体がいくつもあるのに、接点が希薄で困ったときの相談先を知らない方がたくさんいることを知りました。わたしにも何かできることがあるのではないかと考え、思いついたのが、かつて荒川で広く作られていた大豆で人々をつなげる「下町荒川おひさま根っこワーク～つなぐ大豆プロジェクト～」でした。

大豆の配付拠点として協力してくれる店舗を募り、活動に賛同してくれた参加者が受け取った大豆をそれぞれで育て、時々成長を見せ合い、育ったら来年の分の大豆を残してあとは一緒に食べて交流します。そこでの雑談から、畑を貸してくれる人、オリジナルキャラクターを作ってくれる人、「おひ根っこ おまめ便り」を作成する人など、自分の力で、楽しみながら関わってくれる人たちが増えて、大豆でつながる輪がどんどん広がり、今年初めには「荒川区環境大賞」も受賞しました。2023年度は商店や教育関係、福祉事業や診療所など大豆の配布場所も増え、活動を始めてたった一年で、1000人を超えそうな勢いで多様な人たちがつながっています。



ゆるやかなつながりはSNSでも、大豆の成長の様子で交流

◆ ◆ ◆質問交流で出された質問より(抜粋)◆ ◆ ◆

Q:誰でも参加できる雰囲気づくり、空気感などをつくる工夫を教えてください。

「参加される人の中には車いすの方もいるかもしれない。」など、どんな方が参加されても困らないように、運営する側のみんなが想像力を働かせて準備するようにしています。あとは集まってくれた人たちが勝手につくりだす空気感を大事にしています。

Q:人数が減ってきた場合、これまでやってきたことを継続していくために考えていることはありますか？

私たちの活動は「種まき」だと思っています。自分たちが始めた活動が繋がらないと悩むよりは、今の活動が無くなってもその種で育った人が次の活動を生み出して他の形でつながると信じて、今の活動を楽しくやりきればいいのではないのでしょうか。

【アンケートの感想より】

- ・自ら楽しんで行うことで、いつの間にか目標が達成できていることや、思いもよらないほど大きなものになることが良くわかりました。
- ・子育て層の若い世代が活動に参加することで地域活性化につながっていると感じました。とくに大豆の事例は参考になりました。ゆるやかなつながり、自分にできることのなかで関わりを持つことが、参加の広がりを生んでいると感じました。
- ・地域づくり活動のキーワードは「つなげる力をつくる」こと、人と人のつながりが組織を動かすというお話が印象的でした。

予告 東京の生協がすすめる食と健康づくり



フェスタ東京 2023

来てね



10/22(日)10時～17時

10/23(月)10時～16時

新宿西口広場にて

「持続可能なやさしい未来へ」をテーマに消費生活について楽しく学べる「交流フェスタ」で、東京保健生協と東京ほくと医療生協の協力で、健康チェックと10/23(月)11時30分からフレイル予防運動を紹介。